

「応援します!! あなたの農業」



あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 5 4 号 平成 2 9 年 1 2 月

発行元 福島市中町 8 番 2 号
公益財団法人福島県農業振興公社
TEL 024-521-9834 FAX 024-521-8277

7 道県機構が事業推進に向け意見交換

～ 福島で東北・北海道農地中間管理機構後期ブロック会議を開催～



農地中間管理機構後期ブロック会議
(ホテル「ザ・セレクトン福島」(福島市))

10月26日(木)、福島市内のホテル「ザ・セレクトン福島」において、東北6県及び北海道の農地中間管理機構等が出席し、平成29年度東北・北海道農地中間管理機構後期ブロック会議が開催されました。この会議は、各道県機構が持ち回りで開催しているもので、本県では平成22年以来7年ぶりの開催となります。

会議では、東北農政局及び全国農地保有合理化協会より、平成30年度予算要求や農地中間管理機構関連農地整備事業に係る情報提供の後、各道県

機構の農地中間管理事業等の実施状況や事業実施に係る課題等について協議しました。各道県機構ともにマッチングが比較的容易な農地は契約が完了してきているなかで、どのようにして新たな農地や担い手を確保していくのかなど、これからの事業推進に向けて活発な意見交換を行いました。

また、翌27日には、参加者が福島市内の米の全量全袋検査会場を現地視察し、福島県産米検査の様子を見学して、福島県産米の安全・安心に対する取組みについて理解を深めていただきました。



米の全量全袋検査会場の様子(福島市内)

平成29年度農地中間管理事業の推進状況について

平成29年度農地中間管理事業の実績は、12月1日現在で表のとおりとなっています。

既に借入・貸付とも平成28年度の年間実績を上回っており、12月末における機構貸付面積は2,300haを超える見込みとなっております。農業者の皆様をはじめ、市町村、JA、土地改良区など関係機関・団体の皆様のご理解とご協力にお礼申し上げます。

前年度に比べて本年度の実績が伸びた理由としては、

重点地区での人・農地プランの作成・見直しやほ場整備を契機とした計画的な取組が行われたこと

ほ場整備事業完了地区での事業の活用が進ん

だこと

農地保有合理化事業や農地利用集積円滑化事業からの大規模な乗り換えがあったこと

農地中間管理事業制度の周知が進んできたこと

などが挙げられます。

公社としましては、農地の集積・集約を更に進めるため、県と一体となって11月から来年1月までを「重点推進期間」に設定し、推進会議やセミナーの開催、周知・広報活動を集中的に実施しておりますので、関係機関・団体の皆様におかれましては、人・農地プランの話し合いや農地中間管理事業の周知拡大等にご協力をお願いします。

農地中間管理事業の推進状況（H29.12.1現在）（単位：ha）

	平成29年度	参 考	
		平成27年度	平成28年度
借 入	1,611	2,292	1,121
転 貸	1,799	2,576	1,428

（注）1 平成29年度は、4月1日～12月1日に権利が移動した面積です。

2 平成27年度と平成28年度は年度実績です。

地域マネージャー便り

福島県農地中間管理機構

須賀川推進拠点

地域マネージャー あんどう しんじ
安藤 晋治



県中地方の1市4町3村（須賀川市・鏡石町・天栄村・石川町・浅川町・古殿町・玉川村・平田村）の担当として、須賀川農業普及所駐在2年目になります。

農業普及所や各市町村の担当者、JAの担い手担当者にたいへんお世話になり、活動2年目できるよう各地の状況が呑み込めてきました。管内は、県内他市町村同様、耕作条件が区々であり、画一

的な対応では済みません。しかしながら共通的な課題は、やはり担い手の育成確保にあると思われまます。そのためにも、担い手への効率的な農地の集積は必要不可欠でしょう。農地中間管理機構は、規模拡大を目指す担い手農家と耕作を依頼したい農家との橋渡しをお手伝いいたします。

今年、管内市町村には新たに農地利用最適化推進委員の方が選任されました。今後は、農業委員の方々、最適化推進委員の方々の協力をいただき、また情報共有を密にして、事業推進にあたってまいります。「人・農地プラン」の話し合い、個別の農地貸借の手続き等、農地に関するご相談はお気軽に問合せください。

本県代表の武藤洋平さん(D"ATCH)が全国大会出場へ！

～ 第48回東北農村青年会議岩手大会が開催～

平成29年11月1日(水)～2日(木)に東北農業青年クラブ連絡協議会と岩手県農村青年クラブ連絡協議会の主催による『第48回東北農村青年会議岩手大会』が岩手県花巻市の「湯の杜 ホテル志戸平」で開催されました。

この会議は、東北地方の農業青年や関係者など約200名が一堂に会し、日ごろの農業経営や農村生活で得た知識や技術を相互に交換し、東北農業の意欲ある担い手として経営のレベルアップを図ることを目的として開催されました。大会は「農×志＝～集え次世代のアグリニスト～」をテーマに、1日目は東北6県の代表者による「プロジェクト発表と意見発表」、花巻市農村青年クラブ連絡協議会が地元の温泉旅館とコラボレーションしている取り組みの「事例発表」を行い、2日目は花巻市・陸前高田市等で3コースに分かれての「視察研修」を行いました。

本県からは「プロジェクト発表」では、本県代表



プロジェクト発表をする
武藤洋平さん(D"ATCH)

で安達地方青年クラブD"ATCHの武藤洋平さん(二本松市)が「地域一体の魅力的な農村づくり」というテーマで発表し、東北農業青年クラブ連絡協議会長賞(優秀賞)を受賞しました。武藤さんは二本松市東和地区で菌茸の単一経営に、農家民宿を新たに取り入れ、顧客のニーズに応えるためアンケート調査や農業体験メニューのブラッシュアップに取り組み、地域の活性化に努めました。武藤さんは東北代表として、来年の3月に東京都で開催される全国大会に出場することになりました。

また、「意見発表」では、D"ATCHの後藤剛さん(本宮市)が「20代最後の決意、そして挑戦」というテーマで発表しました。残念ながら受賞は逃しましたが、後藤さんは、就農当初の挑戦する気持ちを忘れていたが、ある人の言葉から目標に向けて日々挑戦していこうと気持ちが前向きに変化したことを自信に満ちて発表しました。



意見発表をする
後藤剛さん(D"ATCH)

— 集積推進第一課・第二課 —

機構関連農地整備事業の創設に伴い事業様式を一部改正しました

土地改良法の一部改正が平成29年9月25日に施行され、農地中間管理機構が借り入れている農地について、農業者からの申請によらず、都道府県が、農業者の費用負担や同意を求めずに基盤整備事業(機構関連農地整備事業)を実施できる制度が新たに創設されました。これにより、当機構が農地を借受、貸付を行う際にこの事業が実施される

可能性について事前の説明を行い、同意を得ることが必要となりました。そのため、これら確認事項等を追加した農地中間管理事業の様式を一部改正しました。

改正後の様式を当公社ホームページに掲載しましたので、関係機関の皆様には、新様式を利用しただけようお願いいたします。

有機農業での自立を目指して

会津美里町 いわ さわ まさ ゆき
岩 澤 正 之さん (41歳)

非農家出身の私は農業の経験は家庭菜園程度、知識も経験もなかったため会津若松市の有機農家さんのもとで青年就農給付金(準備型)を活用し、1年間の研修をさせていただきました。

学校ではないため研修内容は常に実践。播種から出荷までの流れ、機械操作、取引先への営業活動などが主な内容でした。研修先の農家さんからは営農する土地での農業の流れを覚えること、自分が得たい収入になるには何をどれくらい作る必要があるかを常に考えるようにとされました。

非農家が農家になるためにはまず農地が必要です。研修が始まって間もなく農地探しを始めましたがなかなか見つかりませんでした。メディアでは耕作放棄地が増え農地が余っていると言われていますが現実には簡単ではありませんでした。

年末が近づき1年の予定だった研修の延長を考え出した頃、たまたま知り合った農家さんから農地を借りることができました。この年はすぐに根雪になってしまい圃場の準備を進められないまま就農の春を迎えました。

就農した春は圃場整備から取り掛かり、6月下旬から収穫が始まりました。取引先への連絡や収穫が増えるタイミングがわからなかったり、段ボールの発注が遅れたり野菜を作ること以外でも重要な仕事があることがわかりました。その中で知り合った多くの農家さんに助けられました。



一人では決して成り立たなかった1年目、多くの人への感謝を感じた1年でした。

これからはもっと知識と技術を身に付け、有機農作物を1年を通して安定して出荷していくことを目指しています。



編集後記

今年もあとわずかとなった。毎年、年始に正月料理を食べることが楽しみだ。

私の出身地の会津地方では、正月に『こづゆ』という郷土料理を食べる習慣がある。こづゆとは、内陸の会津地方でも海産物を食べられるように干し貝柱で出汁を取り、まめふ、人参、しいたけ、里芋、キクラゲ、糸こんにゃく等を煮た料理で、何杯おかわりをして失礼にならないとされている。こづゆを食べると正月が来たことを実感す

る。毎年こづゆを食べているが、まだ自分では作ることがないので、いつか私も作れるようになり、郷土の味を守っていきたい。(荒川真美)

お問い合わせ

あて先 〒960-8681

福島市中町8番2号 福島県自治会館8階

公益財団法人福島県農業振興公社 総務課

TEL 024(521)9834 FAX 024(521)8277

URL <http://www.fnk.or.jp>